

日米医学医療交流財団 アメリカ短期看護研修助成

研修報告書 (2015年度 助成者)

作成日 2015年10月27日

氏名 (フリガナ)	岸 なつみ (キシ ナツミ)
研修地	アメリカ・オレゴン州ポートランド市
研修期間	2015年10月11日(日)～10月17日(土)
所属機関名 身分	仙台市立病院 看護部 HCU病棟所属 看護師

私が今回の研修に参加した理由は、他国の医療事情を学ぶとともに、日本との違いを実際に肌で感じとり自分の看護観の再構築に役立てたいと思ったのがきっかけでした。実際に、研修に参加してみでの感想は、“期待以上に充実したものであり、本当に参加して良かった!!”というのが率直な感想です。

日米の違いで私が特に驚いたことは、看護教育のレベルの高さです。一般的な解剖生理や病態などの知識だけを看護学校で学ぶのではなく、シミュレーションロボというものを教材として使用することで実際の現場で起こりうる事態を考えることができ、現場でのアセスメント力・実践力を看護学生の段階で身につけることができます。これは個人的な意見ですが、アメリカの看護学生が看護学校を卒業する時点で日本の看護師の3年目ぐらいのレベルに相当するのではないかと思います。それくらい看護学校で教える看護教育のレベルが高いのです。また看護師として実際に現場で働くようになってからも、2年ごとに免許の更新をしなくてはならないし、大学に入り直して修士号や博士号を取得する人がほとんどであったりと、アメリカの看護師は知識の維持・向上に極めて意識が高いことに非常に驚きました。自分の現状と比べると、私は今年で看護師5年目になりますが、看護師として備えるべき知識やスキル、態度など実際はまだまだ不十分なところだらけですが、どこか満足してしまっている自分もいて自己研鑽を怠ってしまっていました。

今回の研修から、患者さんの命を預かる以上、医療人として日々勉強し続けていくことは絶対的なことであるというのを気付かせていただくことができました。今後の自分の大きな課題としていきたいと思います。

また今回、一緒に研修に参加させていただいた全国の看護師さん達と出会えて、それぞれの立場からの意見や看護観を共有することができ、とても刺激的でかつ有意義な時間を過ごすことができたことに大いに感謝いたします。

今回の研修に携わる関係各位すべての方々に御礼申し上げます。ありがとうございました。